

ワイヤレスブロードバンド推進研究会第8回会合 議事要旨（案）

1 日時

平成17年10月14日（金） 10時00分－12時00分

2 場所

総務省 講堂

3 出席者（敬称略）

（構成員）

安藤 真、岩崎文夫、大森慎吾、清水哲司（尾崎構成員代理）、桂 靖雄、黒田道子、高木治夫、高野 健、田中善一郎、田中芳夫、辻井重男、太田 進（土井構成員代理）、所 眞理雄、永井研二、古谷之綱（中村構成員代理）、西岡孝行、西尾裕一郎、眞野 浩、村上仁己、森 忠久、森山光彦、弓削哲也、宗像義恵（吉田構成員代理）、若尾正義

（総務省）

須田総合通信基盤局長、桜井電波部長、稲田電波政策課長、田中電波利用料企画室長、金子衛星移動通信課企画官、沼田電波政策課検定試験官、小泉電波政策課周波数調整官、根本電波環境課課長補佐

4 議事

- （1）SIG-Iにおける検討状況の報告
- （2）SIG-IIにおける検討状況の報告
- （3）SIG-IIIにおける検討状況の報告
- （4）CIAJ情報家電ネットワークタスクフォースにおける検討結果の報告
- （5）報告書の構成について
- （6）その他

5 議事概要

- ・資料8-1の第7回会合議事要旨について了承された。
- ・資料8-2に基づきSIG-Iにおける検討状況についてSIG-I主査より報告があった。
- ・資料8-3に基づきSIG-IIにおける検討状況についてSIG-II主査より報告があった。
- ・資料8-4に基づきSIG-IIIにおける検討状況についてSIG-III主査より報告があった。
- ・資料8-5に基づきCIAJ情報家電ネットワークタスクフォースにおける検討結果について情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）次世代情報家電ネットワークタスクフォースより報告があった。

- ・資料 8-6 に基づき報告書の構成について事務局より説明があった。

6 議事内容

議事について以下のような意見、やり取りがあった。

(1) SIG-I の検討状況の報告

- ・ワイヤレスブロードバンドシステムの迅速かつ円滑な実現のためには、ユーザにとって使いやすいシステムであることや十分な周波数帯域を確保することが重要。したがって、この観点から国際標準との共通化や隣接システム双方とのガードバンドの精査について、更なる検討を進める必要がある。また、ワイヤレスブロードバンドシステムに関する検討の成果を世の中の方々に十分に認識していただけるような報告書にしていきたい。
また、本研究会は国外からも注目されている。本報告書を英文化することにより、日本が先進的にワイヤレスブロードバンド環境の構築を進めていることを国際的にも広くアピールしていただきたい。
- ・報告書の英文化については、是非進めていただきたい。
- ・事務局) 前向きに検討したい。
- ・伝送速度の記載について、例えば 20~30Mbps などと記載すると国際標準との共通化の観点から考えても、システムを限定してしまうのではないか。表現の方法などを工夫したほうが良い。

(2) SIG-II の検討状況の報告

- ・「1.9GHz 帯は地理的な制約が厳しい」とあるが、これは技術的に難しいということか。
- ・1.9GHz 帯は全国的に移動通信 (PHS) に割り当てられているため、使用地域が限定されるということである。
- ・当該 SIG は、ルーラルエリアにおける FWA の導入を視野に入れていると思うが、過去の事例にもあるとおり、割り当てても結局あまり使われない周波数帯となってはならない。無線使用の必要性及び有線系システムとの比較等を十分に精査した上で、導入の検討を行っていただきたい。
- ・主旨は同感。貴重な周波数を割り当てるのであれば、そのシステムが普及し確実に国民のメリットになるという視点を持って、有線系システムへの代替可能性を含めて検討しなくてはならない。
- ・IEEE では、ルーラルエリアに導入するシステムの対象が IEEE802.16-2004 から IEEE802.16e へシフトしつつある。技術的な観点はもちろんビジネス的な観点からも、FWA より移動通信の方が、メリットが大きいと感じている技術者が多いようだ。したがって、日本においても、FWA と限定せずに柔軟に検討すべきである。なお、4.9~5.0GHz 帯は既に FWA に割り当てているが、利用実態があまりないという現実もある。
- ・事務局) 4.9~5.0GHz 帯について事実確認をすると、東名阪地域では今年の 11 月 30 日まで及びその他の地域では平成 19 年の 11 月 30 日まで、既存業務の無線局を移行している最中である。したがって、最も早い東名阪地域では、来年以降に利用実績が出てくるものと思料。

- ・ S I G - I の広帯域移動無線アクセスシステムの導入シナリオでは、ルーラルエリアが空いている。そこに S I G - I の技術をルーラル用に適用して S I G - II のシステムとしてうまく当てはめることが出来ると思う。よって全体の報告書ではまとめたストーリーを記述すべき。
そのため、検討対象が 3 つのシステムに集約された感があるが、IEEE806.16-2004 でなくとも 16 e もありうるもの。本研究会は技術を限定することが目的ではないため、それ以外のものも今後の可能性として残しておくべきではないか。
- ・ S I G - II で提案があったものを列挙しただけで、他のものを排除しているわけではない。また、S I G - I での検討状況が分からなかったため、S I G 間の整合性は親会に委ねるという方針で S I G - II の検討を行った。
- ・ コストを下げるためには、国際的に広く流通しているものを利用する必要があるということか。
- ・ そのとおり。ある程度は普及しているチップを利用する等しなければ、装置は安くならないと思料。ただし、特定システムのものを利用するという事ではない。

(3) S I G - III の検討状況の報告 (特になし)

(4) C I A J 情報家電ネットワークタスクフォースにおける検討結果の報告

- ・ テレビは、映像や音声が乱れるとすぐクレームが来る性格のものとして認識。周波数を共用している他の機器が使っていたら電波を出せない、というベストエフォート型のシステムでテレビ番組を伝送することは、基本的になじまないと思料。
- ・ 確かに、リアルタイムで複数のテレビを視聴することは困難かもしれない。ただし、例えば録画した番組をストリーミングして、後で視聴するという需要はある。指摘されたような課題はあるが、QoS が担保された空間（宅内）での干渉を避けるには、どのような条件が必要かを検討した。

(5) 報告書の構成について

- ・ S I G I、II をつなげ、アーバンの流用的なところでルーラルも考えていくことは良い。国際的にはアーバンとルーラルの境は違うので柔軟性をもって対応できることが望ましい。
- ・ 情報家電について、周波数共用の課題を盛り込む必要があるのではないか。
- ・ 事務局) 技術的な課題については、民間の活動で検討されており、周波数共用技術の開発等も進められていると聞いている。今後もこのような動向を注視していくこととし、研究会報告書への記載は考えたい。
- ・ ブロードバンドだとベストエフォートになり QoS がないがしろになることが散見される。市場の信頼のためにはこのような点も配慮が必要。
- ・ S I G を評価する委員会の話もあったが、S I G 内容でかなりまとまっておりそこまでは不用。全体のとりまとめは座長一任でとりまとめ提示していきたい。

(6) 事務局からの連絡

- ・各SIGの検討報告等に対する追加意見や指摘は、メール等にて事務局まで提出してほしい。
- ・各SIGにおける検討報告については、適宜、最終報告書案に反映させる。
- ・次回は11月上旬に開催予定であり、最終報告書案について議論を行う。

以上